



自主財源確保の取組について

木村 博（公明党）

問 観光振興のためのガバメントクラウドファンディングの活用、基金の運用による収入の確保、経済や金融の専門性を有する人材育成と登用制度の導入は、考えているか。

答 現時点で観光面でのガバメントクラウドファンディングを活用する具体的な事例はないが、引き続き他の自治体の動向などを注視していく。

問 生人材支援制度の活用など、専門人材の確保に努めている。また、専門人材の育成については、各部署で専門知識等を習得するための研修等に参加している。

答 社会人経験者を対象とした採用試験では、経済や金融の専門家に該当する人材は採用したのか。昨年年度採用した2名の社会人経験者は銀行等金融機関の職歴はなかった。なお、今後は多岐にわたる業務に従事するゼネラリストの育成とともに、特定分野のスペシャリストの育成についても十分配慮していきたい。

その他の主な質問

○子どもと若者、そして家庭を社会全体で支えるための教育と福祉の連携強化について

○街路樹や低木などが撤去された後の歩道にある植樹樹について



観光行政（仮称）さきたま市場新名称「さきたまテラス」

柴崎 登美夫（新政策研究会）

問 令和5年4月のオープンに向けて順調に進んでいるものと思うが、現在の進捗状況についてはどうか。

答 オープン初年度における来場者数は約5万4千人、売上げを約4500万円と見込んでおり、2年目以降についても、来場者数及び売上げを増やすための取組を継続していく。

問 観光物産施設とテラスゾーンの概要は、どのようなものか。

答 おもてなし観光局が整備する物産施設は、市内地場産品の販売を中心に、さきたま古墳公園を訪れる観光客や市民の皆さんが気軽にテイクアウトできる軽食の販売なども行う。本市が整備するさきたまテラスゾーンについては、キッチンカー等の出店スペース、イベントスペースを設置する予定である。

問 地元埼玉地区との連携についてどのように考えているか。

答 さきたま古墳公園整備事業地元推進協議会に対し、事業の進捗などについて説明してきた。今後、必要に応じて地域の皆さんに情報提供を継続するほか地域活性化に資する施設となるよう、観光局と連携して、運営を行っていく。

問 本市の観光施策としての位置付けは。

答 本市を訪れる観光客の利便性の向上につながるのと同時に、さきたま地域の観光資源の魅力向上につながることを考える。

問 古代蓮公園指定管理者の選定は公募だったが応じたのは1者のみ。この公園は大きな観光資源で、7年前は市内外から5社も応募し活発に競った。なぜ今回は1者のみなのか。民間活力を取り入れたといえるか。

答 本市では60年間も行政経験者が市政運営を行ってきた。「官から民へ」の主張は行政のトップを選出時の考え方である。

問 今回も本市の小・中学校学力テストの結果は、県平均に及ばなかった。市長公約の学力向上は果たされたか。

答 まだ不十分である。任期途中で副市長が辞めたが、採用方法を公募とした市長には説明責任がある。他市の公募では数千人規模の応募者があるのに本市はわずか7人だった。それでも当時の市職員が副市長に選任

問 された。それが、任期をまだ1年近くも残り突然辞めたと聞く。公募方法は適切だったのか。また、市長に責任はないか。

答 方法は適切だったと思うが任命責任は私にある。任期の間は一緒にやってくれらるものと理解していたので、残念であり、一度とこのようなことがないようにするのが私の責任の取り方である。

問 さきたま市場は県の公園用地に飲食店も入る3、4億円規模の施設を造る計画だったが、半年もしないうちに大幅縮小し、4千万円程の計画となった。市の目玉になると期待していたが、市長が交渉能力を発揮し当初の予定通り進めることはできなかったのか。

答 当初計画の3億円もかけるような、華美なものには要らないと私が判断し縮小した。



市長の政治姿勢と政治責任

細谷 美恵子（発言と行動する会）

問 された。それが、任期をまだ1年近くも残り突然辞めたと聞く。公募方法は適切だったのか。また、市長に責任はないか。

答 方法は適切だったと思うが任命責任は私にある。任期の間は一緒にやってくれらるものと理解していたので、残念であり、一度とこのようなことがないようにするのが私の責任の取り方である。

問 さきたま市場は県の公園用地に飲食店も入る3、4億円規模の施設を造る計画だったが、半年もしないうちに大幅縮小し、4千万円程の計画となった。市の目玉になると期待していたが、市長が交渉能力を発揮し当初の予定通り進めることはできなかったのか。

答 当初計画の3億円もかけるような、華美なものには要らないと私が判断し縮小した。